

# 業界最先端で活躍するOB同期生



大学院 工学研究科 1992年修了  
株式会社タダノ 開発部  
キャリアユニット テクニカルアドバイザー

**合田 洋之** ほうだ ひろゆき



工学部機械工学科 1992年卒業  
株式会社タダノ 開発企画部  
環境商品開発ユニット 担当係長

**木内 国博** きうち くにひろ

クレーンメーカーのタダノには徳大OBがたくさんいます。大学別では一番だそうですね。そんな中で、タダノの牽引力となって活躍している一人の同期OBを紹介します。しかしこの2人、在学中には知りませんでした。というのも木内さんは高松高専を卒業後、徳大に編入しました。一方、合田さんは大学院に進みましたが同じ工学部にいなから顔を合わすことがなかったのでしょうか。

## 新たな環境で挑戦

さて先に書きましたように、タダノといえば世界トップクラスのクリーンメーカーですが、建設業界でも環境問題が大きな課題となっている現在、同社でも数々の環境関連商品が開発されています。例えば木材や空きビンなどの破砕機、海水の淡水化装置、関連ソフトウェア等々。

木内さんはこの環境商品開発部門で、石膏ボードの分別機を中心としたプラントの企画設計から発注、設置までを担当しています。そのため全国各地の現場に出張が多く、多忙な毎日を送っています。

このプラントは石膏ボードを紙と石膏に分離してリサイクルしようというものです。

「今までのタダノのイメージが強く、

私たちの商品はまだ認知度が少ないのですが、これからは会社でも重要な部門になると思いますのでがんばります」

高専から大学へ編入したために、先輩たちとの勉強や研究が新鮮だったという木内さん、「会社の大きさではなく、自分の好きなことをやらせてもらえるところをめざしてがんばってほしいですね」とのメッセージをいただきました。

## プロジェクトの中心で活躍

合田さんはタダノの本流、クリーンの部門でがんばっています。最近では開発部の各ユニットから選ばれたメンバーが集まって組まれたプロジェクトのマネージャーとして、新

車の開発に取り組みました。写真のバックがその「CREVO160」。合田さんたちのプロジェクトの結果です。企画 構想から約2年かかりで完成しました。

「自分の手がけたものを町の中で見たい。それは車でも家電でも、何でもよかったんですが、地元の企業ということでタダノにしました」

と言っ合田さんは、大学院時代に学会で発表したことや教授に同行してニュージーランドに行ったことが印象に残っているそうです。

「企業は人なり、と言われますが、人に対する接し方など人としての基本をきちんと学んでおくどこに行っても役に立ちますよ」とアドバイザーとしてくれました。

タダノは今、脱日本依存、脱建設依存、脱耐久材依存の「3脱」をか

かけて、次の時代にチャレンジしていきます。そしてここでも我々のOBが活躍しています。



木内さんたちが手がけているプラント



合田さんたちが開発したCREVO160